

患者の皆様へ

2019年 9月 30日
婦人科・周産期母性科

現在、婦人科・周産期母性科では、胞状奇胎の病理組織診断を検討する研究を行っています。この研究では、当研究室で行っている研究「胞状奇胎が疑われる異常妊娠におけるDNA多型解析」に2008年から2018年の期間に参加していただいた方、および当科で診療を受け、絨毛の病理組織検査が行われた方で、p57KIP2免疫染色法での評価が行われた方のデータをまとめます。病理標本を作成した際のホルマリン固定パラフィン包埋ブロック・診療情報などを利用させていただきます。診療情報・保存組織などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

1. 研究課題名

「絨毛を中心とした子宮内容組織に対するp57KIP2免疫染色の検証」

2. 研究の意義・目的

異常妊娠である胞状奇胎は、肺転移や子宮転移をきたす侵入奇胎という病気になる場合があります。そのため、通常の流産と区別をする必要があります。DNA多型解析は胞状奇胎を診断する最も正確と考えられていますが、一般的な診療では行うことのできない検査です。通常は、病理組織検査（顕微鏡での検査）で診断が行われますが、診断が難しい場合には、p57KIP2免疫染色という特別な方法が使われる場合があります。p57KIP2免疫染色の診断制度を評価することは大切であると考えられます。

3. 研究の方法

2008年1月1日から2018年12月31日の間において、診療録（電子カルテを含みます）から、身長、体重、年齢、ヒト絨毛性ゴナドトロピン値、妊娠週数などを調べさせていただきます。また、病理組織検査結果、病理組織検査に使った病理標本を再確認いたします。p57KIP2免疫染色が行われていた場合には、その標本も確認します。「胞状奇胎が疑われる異常妊娠におけるDNA多型解析」に参加し、DNA診断が確定している方は、DNA診断の結果と、p57KIP2免疫染色の結果を比較します。またDNA診断が確定している方で、p57KIP2免疫染色が行われていなかった方に対しては、病理部に保存されているホルマリン固定パラフィン包埋ブロックを用いて、p57KIP2免疫染色を行い評価します。DNA診

断結果と p57KIP2 免疫染色の結果は、匿名化した後で研究に用います。

4. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報は、匿名化して管理し外部に洩れることのないように厳重に管理します。研究成果の発表にあたっては、患者さんの氏名などは一切公表しないこととします。データ等は、千葉大学大学院医学研究院生殖医学教室の鍵のかかる引き出しに保管します。

5. 研究に診療情報などを利用して欲しくない場合について

ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をします。ので、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

文部科学省・厚生労働省による「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて掲示を行っています。

研究実施機関 : 千葉大学医学部附属病院婦人科・周産期母性科

本件のお問合せ先 : 千葉大学大学院医学研究院生殖医学

講師 碓井 宏和 (うすい ひろかず)

043 (226) 2121 内線5312 (産婦人科医局)